

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんこ吉野		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 20日		～ 令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 20日		～ 令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	令和 6年 12月 20日		～ 令和 7年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	21	(回答数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者、訪問先からの支援に対する満足度が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の保護者ニーズ調査を踏まえて、訪問先との日程調整を行うため、利用児の課題に沿った適切な時間帯、活動時間での訪問を行うことができている。</li> <li>・児童発達支援、放課後等デイサービスも実施する多機能型事業所であるため、個別支援・小集団支援の様子、課題も踏まえた評価や情報共有ができ、より適切な支援方法の検討へ繋げることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援、放課後等デイサービスでのアセスメントを踏まえて集団場面での困り感をより具体的に抽出し、訪問先へ共有・支援方法の検討へ繋げる。</li> <li>・訪問先や保護者も理解しやすいアセスメント方法を検討し、利用児の成長や課題への共通理解を持ちやすくする。</li> </ul>
2	保護者、訪問先に対して適切な助言ができているとの回答が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児リハビリ経験のある言語聴覚士、作業療法士を中心に訪問支援を行っており、専門的な視点から助言を行うことができている。</li> <li>・訪問先や保護者からの質問に対して、訪問先の環境も考慮した上で、具体的な支援方法を提案できるよう心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の環境設定や指導方針など、より細かく共有することで訪問先に沿った実現可能な支援方法の提案を行う。</li> <li>・園や学校の支援に関する外部研修の受講を検討する。</li> <li>・地域の交流会や支援会議の機会を活用し、園や学校視点での課題点や困り感を調査する。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が少なくなってしまう利用児がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状訪問支援を言語聴覚士1名、作業療法士1名の2名で対応しているため、訪問先との予定の調整が困難になるケースが多い。</li> <li>・多機能型事業所であるため、通所支援との兼ね合いから訪問支援に回える時間帯、日が少なくなりやすい。</li> <li>・利用児の契約数、訪問先の数が多く、それに伴う日程調整やアセスメント、会議などの業務量も多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚士、作業療法士以外の職員への研修やOJTを実施し、訪問支援を行える職員の育成に努める。</li> <li>・訪問支援の必要性、頻度、時間帯などを具体的に保護者、関係機関と検討し、より計画的な利用や契約の見直しへと繋げる。</li> </ul>